

元気なる 二年参りと そば食らう 梅柿

(閑居知足 No.d36) 平成7年(2025)12 月号

【千曲のかなた:終生書生^{かたぎ}気質】

自然のエネルギーは計り知れない。寧ろ人間にとっては脅威と言える。自然のエネルギーの及ぼす力が地球規模であり、万一発生した場合は、場合によっては一国の財政が破綻しかねない被害となる。

昨日まで、初冬の牧歌的な雰囲気呈していた善光寺平も、今朝方からの降雪で、景色は白一色に一変した。見渡せる限りの山河の景色が白一色である。自然のスケールの大きさに、感服すると同時に自然のエネルギーに脅威を感じる・・・

見渡せる限りの山河を数時間で、仮に白い粉を撒いて一変させることが出来るか？
人力ではとても出来っこない。

であれば、我々人間は、この自然のエネルギーを素直に受け入れ、もたらされる正の恩恵に感謝をし、負の災害(地震・津波・大干ばつ・洪水・豪雨・豪雪・台風等)を最小に抑える努力に、世界中の国々(人々)が手を取り合う時代ではないか。

只管、自然のもたらす負の災害に、人類は立ち向かわなくてはならないものを思えば如何に戦争は愚行と言えるか。歴史を振り返るに、為政者の独善的征服行為であって、宇宙船地球号の全乗客にとって、最も乗船拒否をすべき輩と言える。

数時間で善光寺平の山河を白一色に変えてしまう、この大自然の大魔神に畏敬の念を抱かざるを得ない。唯々・・・莊嚴だ！

【須坂市ふるさと納税返礼品「産地偽装」問題に関する報道記事手控】

○須坂市長 ふるさと納税産地偽装問題で“信頼回復めざす”

【三木市長あいさつ】

記事抜粋:須坂市の仕事納め式で、出席した幹部職員などおよそ40人を前に「ふるさと納税の問題を受けて農家を応援しようと、職員や市民、関係団体のみなさんが頑張ってくれた」と述べた上で、引き続き信頼の回復を目指す考えを示しました。

市内でことし10月、県内最大規模となる商業施設が開業したことに触れ、さらなる地域の活性化への期待感を示しました。 N 長野 12/26

○須坂市、施設整備など実施計画総額が5割近く減 ふるさと納税除外で財政厳しく

記事抜粋:須坂市は16日、2026年度から3年間で実施すべき施設整備などの事業を

定めた実施計画の総額は現行の25年度から3年間の計画(約89億8900万円)と比べ5割近く少ない約48億2500万円にとどまると明らかにした。産地偽装問題に伴うふるさと納税制度からの除外で財政運営が厳しく、事業を精査した。

◇中沢正直副市長が同日の市議会全員協議会で示し、「優先順位に基づき、真に必要な事業を計上した」と述べた。

◇永井隆広財政課長は取材に、県や広域連合への負担金や、国の補助事業を優先したと説明した。
信毎 12/17

○須坂 返礼品産地偽装問題 市議会が市長の不信任決議案否決

N 長野、信毎、朝日 12/16

記事要約:須坂市議会では、定例会最終日の16日、一部の議員から三木市長に対する不信任決議案が提出された。

不信任案は宮本泰也氏と岩田修二氏が提出。返礼品の産地偽装問題をめぐり、

▼市長が報告を受けながら返礼品の募集を直ちに停止せず調査に入らなかったことや、

▼ふるさと納税をあてにして歳出を拡大し、身の丈に合った財政運営をしてこなかったなどと指し、「責任の所在を明確にするとともに、新しい体制でこの危機に対処すべきだ」などと述べた。

このあと無記名での投票による採決が行われた結果、

▼賛成が6票、▼反対が10票となりものであり不信任決議案は否決された。

【三木正夫市長談話】

「市民にご迷惑やご心配をおかけしことは申し訳ない」とした上で、財政の立て直しやふるさと納税の再開を目指して引き続き市政運営に取り組む考えを示された。

【特定行政書士 佐藤壽三郎の評論】

三木市長に対する不信任決議案を提出した議員に問う

提出理由における、「返礼品の募集を直ちに停止せず云々について

当時の突然の状況下で、「直ちに停止」することについては、12月18日、今年最後の記者会見に臨んだ須坂市三木正夫市長は、この一年を「業者を信用してしまったために混在という説明を信じてしまった。この点は反省している。今後は反省の上に立ってこれから何をしていくかが非常に大切」と振り返った。

『三木市長は3月に開かれた生産者向けの説明会で「農林水産省の調査が入っているということで調査結果を待つ。今後、産地の偽装については、グルメ市場(業者)でやらないということでしたので、そのまま継続してもいいんじゃないかと、私の認識不足だったと反省しています」と述べていた。』

【記事抜粋:FNN プライムオンライン長野放送 12/18】

これを法的に捉えるならば、「市長に錯誤があった」と私は思います。錯誤とは「勘違い」であり、錯誤に故意の概念はありません。当時の突飛に突き付けられた状況下で、詳細な経緯の把握も出来ておらず、流石の市長も気が動転し、錯誤に陥っての判断であったと推測すべきである。

而して、市長が報告を受けながら、返礼品の募集を直ちに停止せず調査に入らなかったと、一概に避難できるであろうか。これを以って、不信任決議案提出の理由とし、提出した議員の些か他意を含んだ理由付けではと思料するが如何か。

「身の丈に合った財政運営」について

ふるさと納税で取得した金員を、市長が先ず「身の丈に合った財政運営」と提唱され、これを消費するに須らく、議会に予算案として計上し、議会の承認を得て消費したと理解する。況や9月議会は決算議会と言われるとおり、前年度の各会計の歳入歳出決算認定案が上程され、何れも議会の予算決算特別委員会等で「身の丈に合った財政運営」が審査され、本会議の採決を経て認定されたものである。

言うなれば、市長が唱えた「身の丈に合った財政運営」を、公正の確保と透明性を図り、適正なる法手続きを踏んでの予算執行並びに決算書を上程し、その妥当性を、議会が認定したものであると思料する。これを個々の議員が、議会の議決を遡及し、ちゃぶ台返しするような言動はそもそも許されるものではない。議会の権威を失墜しかねない愚行だ。

而して、不信任決議案の提出理由は、自らが議員として議会の審査過程におけるチェック機能の力量不足を、自認する行為である。提出者が、議員として議会との機能不全を曝け出したものと言える。市長にすべて押し付けつる発想は如何なものか。

況や、岩田修二議員は、現在市監査委員であることを自覚され、議員と監査委員の住み分けをされ軽挙妄動は厳に慎まれない。

議員の提出理由は、何れも説得力の乏しい理由付けであり、市長不信任理由としては、全く正当性、妥当性を欠き、将に独りよがりの言いがかりでしかないと感じた。

今、須坂市にとって大切なことは、何遍もこの場で繰り返し申し上げているが、市民が、市長以下市職員が、市議会議員が、農協、農家、商工会議所、商工業者の皆さんが一丸となって、須坂市が被った産地偽装被害から、一日も早く立ち治る智慧を出し合い、再生計画を立て、かつ実施をする時であるのに、志気を削ぐようなことばかりを唱える議員は、百害あって須坂に必要な議員である！

現下の須坂市の非常時に際し、共に痛みを分け合うべく、議員も今任期中の報酬の1割の減額の発議をするぐらいの、議員としての心意気と郷土愛を、市民に示して欲しいものである。

R7年12月27日記す

【市議会の「市長不信任決議案」提出に寄せられたご意見】

- 市長・副市長への問責決議や減給したり、副市長に辞職勧告決議案を可決したり、
今更になって市長不信任案を提出するなんて、市長憎しとしか見えない。遊びで議会軽視もはなはだしい行為としか見えない。 元市議 T 氏
- いろいろな考えがありますが、私は市長不信任決議案が否決されほっとしました。
この段階で新体制と言っても、市長に立候補する方がいるのか？
仮にいたとしても市政をプラスの方向へもっていくのは、なかなか難しいのではないかと

思います。

それよりも、これまでの経過を把握している現体制で活動する方が、より望ましいのではないのでしょうか。 元市職 A 氏

- 不信任決議案ですが、グルメ市場の状況知っていたにも関わらず、先延ばしにしていた事は、市長の責任は当然あると思いますが、JA の販売額が約 70 億あるにも関わらず、グルメの売り上げ額が 40 億あったならば、須高地区のぶどう栽培面積から逆算すれば、どう見ても須坂市産のものでは無いとわかるはずで、その点からして議会側にも責任あると思います。

今回、不信任決議案可決が出されたら、伊東市の様に議会を解散するのでは無く市長が辞任することで余計な経費がかからないので、市民としてはその方が理解出来ると思います。後継者がいないのではあれば、兵庫県知事の様に市長が立候補し市民の審判を仰ぐのが良いかと思います。

考え方を換えれば、グルメの手法は問題あったけれど、ふるさと納税であれだけ事をやった事は、逆に凄いと思います。2年後を見据えてその考え方を学ぶ必要があるではいかと思います。検証を今からやる必要があるような気がします H 氏

- 今はやりの関係人口の一人として、須坂市の課題解決に向けて、私で力になれることがないか考えてみます。

日本全体が高齢化、人口減の世界なので、地元だけでのネットワークに頼っていてはじり貧ということかと思います。観光でインバウンドを増やすという途がありますが、一過性ではなく、何回も往訪させる魅力を創ることが大事だと思います。周辺の自治体と協力して、面としての北信エリアの魅力を高める方策はないのでしょうか。

それに加えて、田中輝美先生らが関係人口という概念を提唱されているのは御高承かと思いますが、須坂も関係人口を増やす施策を本気で展開することが求められてるかと思います。以前は、これにはお金がかかったのですが、今は SNS が安く利用できるので、シャインマスカットの件も逆手にとってより須坂の知名度・好感度を上げることも可能ではないかと思います。そのためには、おじいさんやお婆さんが頑張るのではなく、若い世代が喜んで参加してくれる仕組みをつくる、そのためにはしがらみだらけの組織ではなく、気楽に参加・離脱ができるグループを多数つくる、その結果新たな出会いが増える、ということができればよいのではと思考しております。

産地偽装問題、貴市からみれば一段落、あとは納税者からの信頼回復をどのように図るかということかと思います。 I 先生

- 不信任決議案否決されてよかったですね。

しかし反対者が 10 人とは、まだまだ須坂市議会も捨てたものではありませんね。 S 氏

○須坂市、ふるさと納税返礼品の偽装業者を提訴へ 2 億 5400 万円の支払い求める

記事抜粋：須坂市のふるさと納税返礼品の産地偽装問題で、市は5日、返礼品を取り扱った事業者の日本グルメ市場(和歌山県有田市)に対し、市外産の返礼品の代金など計約2億5400万円の支払いを求め、長野地裁に提訴するための関連案を開会中の市議会12月定例会に提出した。市議会は全会一致で可決。市は来年1月上旬までに提訴する予定としている。

信毎 12/5

【特定行政書士 佐藤壽三郎の論評】

市議会の一般質問で、某議員は議会の度にオウム返しの如く、須坂市ふるさと納税返礼品産地偽装問題に関して、「市長が種をまいた！」と発言するが…

須坂市と日本グルメ市場間の法的立ち位置を斟酌するに、某議員の発言は、恰も須坂市が産地偽装を、日本グルメ市場と共謀若しくは加担をしていたかの印象を受けるが、彼は何の確証を以って「市が種をまいた！」と、言い切れるのであろうかの疑問を抱く。

そこで、このことに注目して、12月定例会の一般質問中継を視聴したが、案の定「市長が種をまいた！」との表題を呈しての一般質問の発言内容ではあるが、些かも小職が抱く疑問の解消には至らない、市長への恨み節の質問内容でしかなかった。

何故ならば、須坂市が日本グルメ市場に対して、長野地裁に提訴するという事は、当事者間に、仮にも「市長が種をまいた！」事実や共謀や癒着の事実があれば、提訴など出来ないことを先ず認識されたい。換言すれば、須坂市は「ふるさと納税返礼品の産地偽装問題」に対して、日本グルメ市場との間に、些かも共謀や癒着等の「市長が種をまいた！」事実が無いゆえに、行政機関としての須坂市行政庁たる市長が、毅然と司法判断を求めるに至ったと解すべきである。

「須坂市が事業者の日本グルメ市場に対し、市外産の返礼品の代金など計約2億5400万円の支払いを求める」上程した議案について、報道は「市議会は全会一致で可決」とある。将にこれこそは、某議員が法的思考の全くできない輩であることの証左とも言える。

「市議会は全会一致で可決」とは、某議員も賛成したことが推測されるが、であれば議場においての「市長が種をまいた！」の発言と矛盾する、賛成の意思表示ではないか。と

而して、今後は「市長が種をまいた！」と受けを狙う発言は、厳に慎まれるべきであることを忠告したい。

日本グルメ市場は「産地偽装ではなく農産物の混在であった」と主張する。然らば山形県内の、どの市町村とのふるさと納税返礼品の業務委託があったかを、この須坂市と総務省に示して欲しい。そして、その市町村との業務委託が事実であるならば、「農産物の混在があった」との主張も信用できるが、山形県内の市町村間に、何らふるさと納税返礼品業務委託が無ければ、「産地偽装ではなく農産物の混在であった」との主張自体は虚言であると言える。なぜこの須坂市の日本グルメ市場の発送作業所に「山形産の農産物」が存

在しなければならなかったのか訝しい。あってはならないものであり、本来「混在」ではなく、偽装(須坂産の不足分の水増し)するための手段であったと推測される。

日本グルメ市場は、潔く須坂市に迷惑をかけたことを素直に認め、須坂市を救済するために、総務省に「全責任は当社にあります。」と申し述べ、総務省が下した須坂市に対しての、ふるさと納税制度の対象から除外決定の取消を求めるべき、嘆願書を差し出す位の潔さと責任があって欲しかったと思うが如何か。

そもそも、ふるさと納税返礼品とは、あくまでも須坂市の特産品が対象であって、「山形県産」などの農産物が、須坂市の日本グルメ市場の発送作業所に存在していたこと自体、あってはならないものである。これは明らかに須坂市との協定違反であり、将に背信行為であって。須坂市としては甘受できないものである。

須坂市は日本グルメ市場に対し、事の損害賠償請求は当然とし、更に刑事告訴をする準備も速やかに検討されたい。

佐藤壽三郎の不祥事防止策の提言

- 須坂市は、ふるさと納税が復活された場合は、指摘された「職員のズブズブの関係」や市としての「ずさんな管理体制」の過ちを、二度とこのような不祥事に巻き込まれないためにも、ふるさと納税返礼品委託業者の作業工程を、抜き打ち立ち入り検査をする「検査員」機関を設けるべきである。
- 検査員の構成は、日常的に委託業者と接している市職員は除き、市長より特任された以下のメンバーとする。
 - 農林課長、商業観光課長、JA長野須高支所よりの選出者、商工会議所よりの選出者、元警察官で市嘱託職員、元税務署職員で市嘱託職員である者で構成する。
- 立ち入り検査員の目的は「須坂産以外の特産物の混入の有り無し」の抜き打ち検査を主とする。立ち入り執行日時等は一切極秘で「検査員」の任意日とする。検分対象は委託業者が須坂市若しくは、ふるさと納税返礼品委託業者が保有し、須坂市に届出している全ての作業現場、作業場、倉庫、資材置き場とする。
- 万一、立ち入り検査時に「須坂産以外の特産物の混入が認められ、若しくはその恐れあり」と認められる場合は、検査員は、梱包、発送の作業の停止を命じることが出来る。(これは当事者間で取り交す協定書若しくは委託業務契約書等に明記する。)
- 前項の事実が発覚した場合は、検査員は違法現場の保全措置を映像等で施し、直ちに総務部長、副市長に現場立ち合いを要請する。
- 証拠保全が整った後、本庁において、「対策会議」を招集する。
 - 「対策会議」の席上、不正行為、疑わしい事象があった場合は、副市長は躊躇することなく、市長に「報告会」に出席要請をし、市長は事案の解決策を協議し、その結果を委託業者に質し、説明を文書で受ける。事案によっては、市の顧問弁護士も同席して解決策を図る。
 - 市長が公用で須坂市不在の際は、副市長が座長を務める。
- 立ち入り検査をしたが異常がない場合の報告会の開議について。
 - 立ち入り検査を終えたら、本庁で副市長出席の下に「立ち入り検査報告会」を開催する。

報告内容は後日のため文書作成と同時に音声入り映像で保存される。

- 「報告会」の席上、疑わしい事象の報告があった場合は、副市長は躊躇することなく、市長に「報告会」に出席要請をし、市長は事案の解決策を協議し、その結果を委託業者に質し、説明を文書で受ける。事案によっては、市の顧問弁護士も同席して、解決策を図る。
市長が公用で須坂市不在の際は、副市長が決定を下す。
- 立ち入り検査時に「須坂産以外の特産物の混入が認められた」場合は、当事者間で取り交した協定書若しくは委託業務契約書に基づき、「契約の解除」手続きを委託業者に通告する。併せて、協定書若しくは委託業務契約書に基づき損害賠償手続きを毅然と行う。
極めて悪質な場合は、刑事告訴も辞さない。
- 委託業者の作業所に、日々出向する任にある担当市職員の身分は民法上の使者であり、担当市職員が委託業者からの、依頼若しくは要請があっても認諾権限はない。上司に伝え上司より回答するものとするが、上司は課長、部長、副市長の裁可がない限り、回答することはできない。仮にこれらの一連の手順を犯した場合は、無権代理、或いは表見代理行為であり効力を生じないことを、協定書若しくは委託業務契約書明記して置く。
- 委託業者の作業所に、日々出向する任にある担当市職員が、勤務中に「須坂産以外の特産物の混入、若しくは惧れあり」と現認した場合は、「緊急事案」として速やかに上司に報告をし、その指示に従わなければならない。報告を怠ったり、見過ごした場合は、「ズブズブの関係」と看做し、委託業者との間に共犯若しくは共謀あり等の誹りを防止する。
- 担当職員は、委託業者の作業現場に出向したときは、帰庁後に任務の数次の遂行内容をつぶさに「業務日誌」に書き記し上司に報告をする。業務日誌は、係長、課長、部長がこれを確認する。

須坂市特産品は 市が認定制度の導入を図るべし

特産品とは、須坂市の地域ならではの気候や風土、歴史の中で「特にその土地で作られたもの(産物や加工品)」を指し、その地域を代表する特別な品物とのことである。

この定義にそぐわない「果して須坂市の特産品と言えるか」と思える品々が間々見受けられた。須坂市は、届出制から認定制とし、「特産品認定基準」を規定され、更に認定審査委員会を設置し、構成委員として JA 須高支部選出委員、須坂商工会議所選出委員、市の農林課・商業観光課職員らによる厳格に、「ふるさと納税対応格特産品認定」の審査・運用をされる機関を設置することを切望する。要は須坂市ふるさと納税返礼品の自称特産品レベルは排除し、「特産品認定基準」規定に当てはまるものを、ふるさと納税返礼品として取扱うべきである

12月5日記す。12/31 一部内容修正

【他市町村が抱える ふるさと納税返礼品の「地場産品」準問題手控】

○ふるさと納税の返礼品に産地外の原料混入していた南箕輪村、返金を断念

信毎 12/8

記事抜粋:南箕輪村は8日、返金を希望している寄付者に対し、返金には応じず、返礼品を送るなどとする対応方針を示した。返金は地方税法などに抵触することが判明したため一としている。村は返礼品の提供業者に対し、損害賠償請求も視野に検討している

返金について、県が「現金を返礼品とするのと等しく、総務省告示と地方税法に抵触する」との見解を示した一として方針を変更した。 信毎 12/8

◆【読本備忘録】

- 月刊日本行政 No.638 日本行政書士会連合会
- 漢詩をよむ 中国 古都の詩【華北編】 佐藤正光著 NHKテキスト
- 今昔物語集 角川ソフィア文庫（再読）
- 怪談・骨董 小泉八雲著 河出文庫（再読）
- 「アベノミクス」の真相 浜 矩子著 中経出版再読（再読）
- 新・不思議の国の信州人 丸山一昭・岩中祥史著 ワニ文庫（再読）
- 教科書が教えない歴史 自由主義史観研究会 藤岡信勝共著 扶桑社文庫
- 上杉武将伝 直江兼続 近衛龍春著 PHP 文庫

◎新型肺炎等に関する県内の対応状況の報道等備忘手控

【新型コロナ】

- 11月30日までの1週間に届け出た感染者数は 前週比0.22人減の3.24人。
- 7日までの1週間に届け出た感染者数は、前週比0.80人減の2.44人。
信毎 12/10
- 14日までの1週間に届け出た1定点当たりの感染者数は、前週比0.08人減の2.36人。
信毎 12/17
- 21日までの1週間に届け出た感染者数は前週比0.35人減の2.01人。 信毎 12/24

【インフルエンザ】

- 11月30日までの1週間に届け出た感染者数1医療機関当たり72.49人。
県は引き続き「インフルエンザ警報」を出して感染対策を呼びかけている。
- 7日までの1週間に届け出た感染者数は、前週から15.45人減の57.04人だった。
信毎 12/10
- 14日までの1週間に届け出た感染者数は、前週から10.40人減の46.64人だった。
2週連続で減少 信毎 12/17
- 21日までの県内80の定点医療機関が届け出た1定点当たりの感染者数は34.15人。
前週から12.49人減。減少傾向が続いているが、依然として警報基準の30人を超えている。
信毎 12/24

【感染性胃腸炎】

- 7日までの1週間に届け出た感染者数は、前週比0.82人増の3.30人だった。

【性感染症・梅毒】

- 長野県で2025年の梅毒感染者数が93人で過去最多 4年連続で更新
記事抜粋: 県外との往来が活発になったことや、SNS(交流サイト)の普及で見知らぬ人と接触する機会が増えたことが背景にある。 信毎 12/24

◎以下は報道機関からの報道なし

【手足口病】

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

【伝染性紅斑(りんご病)】

【百日せき】

【急性呼吸器感染症(ARI)】※新型コロナウイルスやインフルエンザもARIに含まれる

【情報元：NHK長野、信濃毎日新聞、朝日新聞】

◎注目した長野県内の報道備忘手控

※ 長野広域連合構成市町村に関わるものは青字で表示

【社会・裁判・警察・消防・防災・災害等編】

- “遺産横領”で別容疑 司法書士を再逮捕 総額1億円超：駒ヶ根署と県警捜査2課
N 長野、信毎 12/2
- 諏訪地域の救急搬送が過去最多 高齢化と軽症者増が要因 信毎 12/3
- 「空き家バンク」物件転売 辰野町係長を懲戒免職処分 信毎 12/3
- 長野県のガソリンカルテル業者への補助金停止 課徴金免れた会社も対象
：経済産業省資源エネルギー庁 信毎 12/3
- ガソリン価格調整 長野県石油商業組合が“深くおわび” N 長野、信毎 12/5
- 長野県、ガソリンカルテル関連 10 社「入札参加停止」に 県の建設工事や物品購入で
信毎 12/5
- 須坂市動物園の“国内最高齢”ベンガルトラ20歳の雄で、人間の年齢に換算すると100
歳近い「臥桜」死ぬ 園で飼育するトラはゼロに 信毎 12/7
- ひき逃げ容疑で逮捕のごみ収集車運転手「怖くなって逃げた」 N 長野、信毎 12/9
- 「使えねえな」と部下を叱責 中野市の岳南広域消防組合がパワハラで職員2人を懲戒処
分 信毎 12/10
- 茅野市で 60 代男性から 1000 万円だまし取った疑い、埼玉県上尾市の無職、吉村和起
容疑者(43)男を逮捕：茅野署と県警組織犯罪対策課 信毎 12/10
- 長野刑務所の虐待通報差し止めは「不当」 県弁護士会が勧告 信毎 12/12
- 八十二銀行の関係者を装う電話相次ぐ「ボイスフィッシング詐欺」か 信毎 12/12
- ガソリン価格「電話あったのは事実」 長野県石商北信支部長、事前調整を認め陳謝
信毎 12/13
- 長野県や北関東で盗みに関与、ベトナム人 5 人の余罪 163 件を追送検 捜査終結
：県警捜査 3 課や佐久署など 信毎 12/15
- 安曇野市の男性へ詐欺の疑い、名古屋市の無職越川綾子容疑者(24)の女を再逮捕
：安曇野署 信毎 12/16
- 「歩くの面倒」「早く帰りたい」が6割 自転車の酒気帯び摘発171人の動機
信毎 12/17
- 高齢女性 強盗殺人の罪 被告に求刑どおり無期懲役：長野地裁
N 長野、信毎 12/19
- 長野県石油商業組合の高見澤理事長が辞意示す カルテル問題で
N 長野、信毎 12/19
- 県職員2人を懲戒処分 パワハラ行為の課長補佐とセクハラ行為の係長 信毎 12/19
- 消えるマイクロフィルム 国内で唯一製造の富士フィルムが生産終了 信毎 12/21
- 長野市の「きずな村」200 人分が1時間で配布終了「苦しむ人の多さ感じる」信毎 12/21
- 須坂市 冬至にあわせ温泉施設湯「湯っ蔵んど」で“ゆず湯”のサービス

N 長野、信毎 12/22

○北アルプスで目撃増えるニホンザル 過去には雷鳥のひな捕食も…恐れる関係者

信毎 12/22

○市立長野高の男性教員を懲戒免職 酒気帯び運転で 信毎 12/22

○松本市の飲食店「手毬(てまり)」でノロウイルス食中毒 10～70 代の 14 人

信毎 12/22

○「八十二長野銀行」来年 1 月発足、年末年始の ATM 停止などに注意 朝日 12/23

○強盗致傷の疑い 10 代の 3 人逮捕:諏訪署 信毎 12/23

○利用者の預かり金7万円紛失 茅野市の救護施設「ハヶ岳寮」:諏訪広域連合

信毎 12/23

○長野信金の職員、集金の過不足隠すため 3 万 10 円着服し懲戒解雇 信毎 12/24

○箕輪町の学童指導員 遠山正洋・元中学校教諭(74)、少女に不同意性交該当行為で懲戒免職

信毎 12/24

○長野市議員、同意なくキス 長野県内の女性が松本署に被害届 信毎 12/25

○清泉大が農学部、27 年度開設目指す 長野・千曲でキャンパス起工式 朝日 12/26

○実弾発射可能「玩具拳銃」届け出呼びかけ 長野の回収は約1割 信毎 12/27

○無免許運転や信号無視した疑い 長野市鶴賀の会社員の男(74)を現行犯逮捕
:須坂署

信毎 12/28

○「渡さないと村八分に」 町村長が新盆に現金渡す“慣習”、飯田下伊那で常態化

N 長野 12/29

【SNS型投資詐欺】

○茅野署管内に滞在していた東京の 70 代男性、1 千万円の詐欺被害 SNS型投資詐欺
:茅野署

信毎 12/2

○アナリストを名乗る相手から連絡 上田市の 40 代男性、1186 万円相当の暗号資産だまし取られる:上田署

信毎 12/4

○岐阜で詐欺の疑い 住所不定、無職近藤大樹容疑者(27)を再逮捕

:松本署と長野県警

信毎 12/9

○小県郡の女性から 530 万円だまし取った疑い 横浜市の無職、古川素子容疑者(39)を逮捕:上田署と県警組織犯罪対策課

信毎 12/8

○安曇野市内のコメ農家をかたる交流サイト(SNS)などで買った”格安米”届かない詐欺被害

信毎 12/9

○岡谷市の 50 代男性が 2090 万円だまし取られる SNS 型ロマンス詐欺か 信毎 12/9

○北佐久郡の 40 代男性、610 万円の詐欺被害 SNS型投資・ロマンス詐欺か

信毎 12/10

○「指示通り投資して」 安曇野市の 60 代男性が 2635 万円だまし取られる:安曇野署

信毎 12/11

○須坂市の 50 代男性、暗号資産 1258 万円分を詐欺被害:長野中央署 信毎 12/15

○木曽郡の 30 代女性、435 万円相当の暗号資産を詐欺被害:木曽署 信毎 12/15

○安曇野市の 70 代男性、757 万円の詐欺被害 SNS 型投資・ロマンス詐欺か

:安曇野署

信毎 12/16

○塩尻市の 60 代男性、124 万円の詐欺被害 SNS 型投資・ロマンス詐欺か:塩尻署

信毎 12/16

○松本市の 70 代男性、649 万円の詐欺被害:松本署 信毎 12/18

○松本市の 40 代男性、235 万円相当の詐欺被害 :松本署 12/20

○安曇野市の 50 代男性が 500 万円の詐欺被害 :安曇野署 12/20

○松本市の 60 代女性が現金 2088 万円余を、同市の 60 代男性が現金 865 万円と 750 万円相当の暗号資産(仮想通貨)をそれぞれだまし取られたと発表:松本署 信毎 12/24

○飯田市の 50 代女性が 905 万円相当の暗号資産(仮想通貨)をだまし取られたと発表 :飯田署 信毎 12/24

【特殊詐欺】

○安曇野市の 20 代女性、350 万円の詐欺被害 副業紹介のサイト経由:安曇野署
信毎 12/2

○詐欺の「受け子」と「出し子」か 窃みの疑いで埼玉の大学生を逮捕 北安曇郡内の 70 代女性が被害:大町署と県警組織犯罪対策課 信毎 12/4

○詐欺の疑いで大阪市平野区の無職、中島峰世容疑者(50)を逮捕
:伊那署と県警組織犯罪対策課 信毎 12/11

○携帯電話に厚労省職員名乗る男から電話 松本市の 70 代、1434 万円の詐欺被害
:松本署 信毎 12/12

○茅野市の 20 代男性が 935 万円の詐欺被害:茅野署 12/20

○上高井郡の 20 代男性、172 万円相当の詐欺被害 電話でお金詐欺:須坂署
信毎 12/22

○北佐久郡の 30 代女性、460 万円の詐欺被害 電話でお金詐欺:軽井沢署
信毎 12/24

○長野市の 30 代男性、1164 万円の詐欺被害:長野南署 信毎 12/24

○松本市の 50 代男性、529 万円余相当の暗号資産をだまし取られる:松本署
信毎 12/25

【交通事故・歩行者が横断中の事故】

○県内で交通死亡事故多発 県警が安全運転の徹底呼びかける N 長野、信毎 12/2

○伊那市の横断歩道ない市道で軽乗用車にはねられ男性重体 信毎 12/12

○須坂市村山町交差点で **トラックで男性をはねて逃走か** 長野市の会社員、荒井正和
容疑者46歳会社員逮捕 N 長野、信毎 12/18

○飯田市の国道交差点で軽トラと衝突 搬送された原付バイクの運転手死亡
信毎 12/18

○長野市で歩行者の男性死亡 軽自動車と衝突 信毎 12/27

○伊那市の県道を歩いて渡っていた男性、乗用車にはねられ重体 信毎 12/27

【気象・地震・農政】

○4 日、長野県北部と中野飯山は大雪の見込み 北部 40 センチ降雪予想
:長野地方气象台 信毎 12/2

○4 日、須坂市市街地に初雪 筆者 12/4

○もち米も価格高騰、今年の 2 倍の店舗も 長野市内を調査:信毎 12/8

○県内、12 日昼前にかけて北部大雪の可能性:長野地方气象台 N 長野、12/11

○県内、15 日昼前にかけ強い雪が降る可能性 長野や大北、上田、木曽地域に
大雪注意報 信毎 12/15

○12 月の熊目撃件数 29 件、長野県で最多ペース 半月で過去 2 番目 信毎 12/16

○来年 1 月～3 月の関東甲信地方、降水量は少なめ 気温はほぼ平年並み:気象庁

信毎 12/23

○26日に警報級大雪の可能性 長野県北部山沿いと中野飯山地域:長野地方気象台

信毎 12/24

○須坂市街地降雪 26 日午前 11 時現在 20cm 筆者

○27 日朝 長野県の 23 地点で今季最低気温 須坂市街地-6℃、上田市菅平で氷点下 17.1 度

信毎 12/27

○県内の 12 月のツキノワグマの目撃件数は、今月 26 日時点で 36 件と、平成 18 年以降で 2 番目に多い。▼10 月が 219 件▼11 月は 174 件 N 長野 12/29

【政治・国・県市町村・市総務・税務・財政・議会・教育・福祉・選挙等編】

○県内の有効求人倍率 10 月は 1.26 倍 2 カ月ぶりに低下:長野労働局 信毎 12/1

○長野県の「決まって支給する給与」26 万 8903 円 16 カ月連続で前年水準上回る

:県総合政策課

信毎 12/3

○「空き家バンク」物件転売 辰野町係長を懲戒免職処分:上伊那郡辰野町 信毎 12/3

○営利団体、有料で公民館の利用可能に 須坂市が改正案 信毎 12/5

○長野県知事「不明な点多い。不十分」 ガソリン価格カルテル 石商の会見にコメント

信毎 12/6

○長野市、課徴金対象の事業者を指名停止へ ガソリン価格カルテル問題で 信毎 12/8

○県内の製造業、2024 年は中国へ進出なし 最多はベトナム:長野県 信毎 12/8

○「再任用を」、須坂市の非正規職員が陳情 産地偽装問題で財政運営悪化受け

記事抜粋: 同市は産地偽装問題を受けてふるさと納税制度から除外され、同制度による寄付金が受け取れず、財政運営が厳しくなっている。事業の縮小で会計年度任用職員の削減や勤務時間の短縮が見込まれる中、陳情は希望する全ての会計年度任用職員の再任用を求めた。

非正規で働く会計年度任用職員の任期は1年以内で、市が年度ごとに再任用を判断している。

信毎 12/9

○松本市長「おこめ券」ではなく電子クーポン検討 箕輪町長は食品の「生活支援券」検討

信毎 12/9

○自公維が国と地方の財政負担求める給食無償化案 全国知事会「速やかに検討」

信毎 12/9

○県内 11 月の新車登録 3.9%減 5 カ月連続で前年同月を下回る

:北陸信越運輸局長野運輸支局

信毎 12/9

○長野市、ガソリン価格カルテルの事業者 10 社を指名停止 信毎 12/11

○長野市と松本市の市立中学校 全校生徒の個人情報漏えいの可能性

:長野、松本両市教育委員会

信毎 12/11

○物価高に対応し、診療報酬引き上げを:全国知事会と日本医師会が認識共有

信毎 12/11

○長野県が 108 億円の補正予算案を決定 医療・介護賃上げに 56 億円 信毎 12/11

○小学校の給食無償化、戸惑う長野県の自治体 負担ゼロのはずが「折半」浮上

信毎 12/11

○小布施町議会、議長の不信任決議案を賛成多数で可決 定数検討巡る発言で

信毎 12/12

○県議会 国の総合経済対策を踏まえた一般会計の総額で108億2000万円余りの追加の補正予算案などを可決して閉会 N 長野、12/12

- 長野県の全市町村に犯罪被害者支援条例 高森町議会の可決で 県内全域で支援体制
信毎 12/16
- 給食のチキンライスに金属片が混入 安曇野市の中学校 N 長野、信毎 12/19
- 長野県全 19 市の小学校給食の食材費「給食無償化」基準額の月額 5200 円上回る
信毎 12/19
- 飯田市議会、議会の在り方検討委を設置 定数や議員報酬など話し合う 信毎 12/22
- 不登校の子どもの居場所に仮想空間 長野県教育委員会が検討 信毎 12/22
- 職員を懲戒処分 補助金の支給で誤り:御代田町 信毎 12/23
- 大町市長らの給与減額する条例改正案可決 官製談合防止法違反事件で引責:大町市
信毎 12/23
- 長野県の来春卒業予定の高校生、就職内定率 89.8% 11 月末時点:県教育委員会
信毎 12/23
- 長野県、県と 76 市町村の普通交付税増額 信毎 12/23
- 2027 年度の長野県立高校入試 前期は27年2月8日、後期は3月9日実施
信毎 12/24
- 部活の地域移行 暴力団関係者の指導防止へ全国初の協定 長野県教委と県警
信毎 12/24
- 伊那市は「おこめ券」ではなく商品券など検討 物価高騰対策 信毎 12/25
- 長野市消防局 新システムの運用開始 通報者の撮影映像を伝送 N 長野 12/28
- 長野市 50%のプレミアム付き商品券発行へ 物価高対策で N 長野 12/29

【経済・政府機関等・県機関・市政策推進、商業観光等・民間情報機関等編】

- イオンモール須坂、ファミリー層が流入 客全体の8割北信、上田や松本からも
信毎 12/2
- 長野県内設備投資 7.4%減 25 年度実績見込み額 :長野経済研究所調査
信毎 12/3
- 県内の 11 月の倒産は 11 件 負債総額は7億 4000 万円:東京リサーチ長野
信毎 12/4
- 県内の企業の 53・8%が福利厚生充実に意欲 全国 7 番目の高さ:帝国データバンク
信毎 12/5
- 長野県内景況感 1.4 ポイント上昇 5 期ぶりにマイナス水準脱する 全産業 10~12 月:
長野財務事務所 信毎 12/12
- 長野県の 12 月短観 全産業プラス 5 不透明感薄れ製造業押し上げ
:日銀松本支店 信毎、日経 12/15
- イオンモール須坂が変えた人の流れ 長野駅前も集客への模索続く 信毎 12/19
- 11 月消費者物価指数 長野市は 2.4%上昇 52 ヶ月連続で前年同月上回る
:県総合政策課 信毎 12/19
- 物価高と金利上昇「ダブルパンチ」も 日銀の追加利上げ決定で長野県内の企業は
信毎 12/20
- 長野、松本で増える億ション 日経 12/23
- 「ロン・都」運営会社が会社更生法適用申請 長野県内外に約 20 店、「ライフスタイル
提案型」も行き詰まり:東京リサーチ、帝国データバンク 信毎 12/23

- 八十二銀行と長野銀行、普通預金金利 0.3%に上げ 合併後の2月から 日経 12/24
- 長野信用金庫、普通預金金利を 0.3%に引き上げ 26年2月から 日経 12/25
- 長野県企業、「関税影響あり」は2割へ増加も 不透明感薄らぐ:長野県 日経 12/26
- 11月の有効求人倍率 長野は上昇の1.26倍:長野労働局 日経 12/26
- 長野県の景況感 製造業は改善、非製造業は足踏み【信毎経済アンケート】信毎 12/28

【国内報道備忘録】

- 初の「後発地震注意情報」 青森で震度6強、M7・5 信毎 12/9
- 首都直下地震被害は82兆円超 政府想定見直し、死者1万8千人 信毎 12/19
- 全国高校駅伝・女子 長野東が2連覇 信毎 12/21

【県内のレギュラーガソリン価格./ℓ】

- 県内のガソリン価格 先週より4.5円値下げ 12/4
- 県内のガソリン価格 先週と同じ 全国で3番目の高値 12/10
- 県内のガソリン価格 先週より5円60銭安い 全国で番目の7高値 12/17
- 県内のガソリン価格 先週より0.4円値下げ。値下がりとは2週連続。

全国で番5目の高値 12/24

日付 価格	12/2	12/8	12/15	12/22
県内価格円/L	170.5	170.5	164.9	164.5

【情報元: NHK 長野、信濃毎日新聞】

【社説を俯瞰すると 世相がくっきり読み取れます:報道備忘】

- 〈社説〉熊対策の担い手 国と自治体 ともに育成を 信毎 12/1
- 〈社説〉秘書国会定数削減案 いい加減すぎる与党合意 信毎 12/2
- 〈社説〉企業に公金 政界の「身内びいき」解明を 信毎 12/3
- 〈社説〉2割負担の拡大 介護保険の理念にもとる 信毎 12/4
- 〈社説〉旧姓使用法制化 別姓選べぬ社会いつまで 信毎 12/5
- 〈社説〉石商の会見 これで出直しはできるか 信毎 12/6
- 〈社説〉おこめ券の配布 物価高対策の効果が薄い 信毎 12/7
- 〈社説〉下請けいじめ 負担強い悪習の一掃を 信毎 12/8
- 〈社説〉国の水俣病調査 責務果たさず無意味だ 信毎 12/9
- 〈社説〉女流棋士の出産 不利益にならぬ仕組みを 信毎 12/10

- (社説) 社会保障の協議 高齢期の安心 誰のため 朝日 12/1
- (社説) 日中の対立 民間の交流を止めるな 朝日 12/2
- (社説) 定数削減法案「結論ありき」の乱暴 朝日 12/3
- (社説) 一票の不平等 立法府の怠慢、是正を 朝日 12/4
- (社説) 租特と補助金 責任の形示す見直しを 朝日 12/5
- (社説) 夫婦の姓 通称使用では足りない 朝日 12/6
- (社説) ウナギ規制否決「絶滅危惧種」忘れずに 朝日 12/7

(社説) スパイ防止法の策定 民主社会の基盤を崩さないか 朝日 12/8
(社説) レーダー照射 日中 衝突防ぐ冷静さを 朝日 12/9
(社説) 青森で震度6強 厳寒期の備え再確認を 朝日 12/10

[社説] 非道な人身取引を根絶せよ 日経 12/1
[社説] マイナ保険証利用へ周知を 日経 12/2
[社説] 予算効率化は証拠に基づき政策検証を 日経 12/3
[社説] 医療の構造改革が診療報酬増の前提だ 日経 12/4
[社説] マンション取引の実態透明に 日経 12/5
[社説] ドラッグ店は高齢化対応で地域の核に 日経 12/6
[社説] 中国の軍事的挑発は断じて許されない 日経 12/7
[社説] 政治の良識欠く定数削減法案 日経 12/8
[社説] 北海道・三陸沖の後発地震へ備え冷静に 日経/12/9
[社説] 防衛費の増額は安定財源が欠かせない 日経 12/10

<社説> マイナ保険証への移行 制度定着に戦略欠かせぬ 毎日 12/1
<社説> 同性婚巡る判決と国会 尊厳守る議論を急ぐ時だ 毎日 12/2
<社説> 防衛装備の輸出拡大 なし崩しの運用許されぬ 毎日 12/3
<社説> サイバー攻撃と企業 経営揺るがす脅威直視を 毎日 12/4
<社説> 自維の定数削減法案 理屈も手順もでたらめだ 毎日 12/5
<社説> 泊原発の再稼働容認 住民の不安解消が最優先 毎日 12/6
<社説> 国旗損壊罪の創設案 息苦しい社会にするのか 毎日 12/7
<社説> 「ゾンビたばこ」の害 実態把握し規制の強化を 毎日 12/8
<社説> 中国軍機レーダー照射 許されない危険な威嚇だ 毎日 12/9
<社説> 初の後発地震注意情報 命守る備えを確認したい 毎日 12/10

<社説> 新興企業の粉飾 国の成長戦略妨げる不正会計 読売 12/1
<社説> ウナギ規制否決 日本は資源保護の努力続けよ 読売 12/2
<社説> 香港高層火災 人命軽視の施工が惨事招いた 読売 12/3
<社説> 大学病院 経営の安定で機能維持したい 読売 12/4
<社説> 憲法審査会 条文案作りに着手する段階だ 読売 12/5
<社説> 指示役の逮捕 トクリウウ壊滅への一步に 読売 12/6
<社説> 再審の改革議論 裁判の迅速化が目的のはずだ 読売 12/7
<社説> レーダー照射 危険極まりない中国の挑発だ 読売 12/8
<社説> 米国家安保戦略「自国第一」では中露を利する 読売 12/9
<社説> 青森震度6強 当面は後発の揺れに備えたい 読売 12/10

<主張> 生活保護費 追加支給の確実な実行を 産経 12/1
<主張> ウナギ規制回避 稚魚利用半減に良策あり 産経 12/2
<主張> 東京の火葬料 厚労相は何をやっている 産経 12/3

<主張> 病院の赤字 的絞った支援で患者守れ 産経 12/4
<主張> 緩和ケアの拡大 誰もが受けられる医療に 産経 12/5/
<主張> 衆院の定数削減 与野党は早期の実現図れ 産経 12/6
<主張> 強盗指示犯を逮捕 匿名に隠れる「悪」許さぬ 産経 12/7
<主張> レーダー照射 中国軍の暴挙を非難する 産経 12/8
<主張> DNA 鑑定不正 このままでは信頼戻らぬ 産経 12/9
<主張> 青森で震度 6 強 冷静に後発地震の備えを 産経 12/10

<社説> 女流棋士の出産 不利益にならぬ仕組みを 信毎 12/11
<社説> 進学率と障害者 学ぶ権利に目を向けて 信毎 12/12
<社説> 核のごみ処分 候補地だけの問題とせず 信毎 12/13
<社説> 社会保障の改革 鳥の目と虫の目、兼ね備えて 信毎 12/14
<社説> 物価高騰の対策 自治体の自由度、最大限に 信毎 12/16
<社説> 定数削減法案 本末転倒の論点ずらしだ 信毎 12/17
<社説> 補正予算成立 国債依存を繰り返すな 信毎 12/18
<社説> アイヌへの差別 加担した学界、過ち検証を 信毎 12/19
<社説> 税制改正大綱 無責任な与野党の相乗り 信毎 11/20

(社説) 米安保戦略 利己に走る大国を憂う 朝日 12/11
(社説) 政治資金問題 論点ずらさずに直視を 朝日 12/13
(社説) 辺野古埋め立て 立ち止まって考え直せ 朝日 12/14
(社説) 女流棋士と出産 二者択一 迫るのでなく 朝日 12/16
(社説) 補正予算成立 国債依存を繰り返すな 朝日 12/17
(社説) おこめ券の配布 疑問と批判 受け止めて 朝日 12/18
(社説) 医療の平等 日本も学び直しのとき 朝日 12/19
(社説) 安倍氏銃撃裁判 鮮明になった教団の影 朝日 12/20

[社説] 徹底捜査でトクリュウ壊滅を 日経 12/12
[社説] NHK は公共の役割再定義を 日経 12/13
[社説] 留学生の授業料引き上げは細心の配慮で 日経 12/13
[社説] 市販類似薬の改革は腰砕けでいいのか 日経 12/15
[社説] 経済界はもっと大胆に政策へ注文を 日経 12/16
[社説] 多党化時代に無責任な政策合意では困る 日経 12/17
[社説] スマホ新法は不断の見直しで競争促進を 日経 12/18
[社説] 日銀は利上げ継続の道筋で十分な対話を 日経 12/19
[社説] 財源の手当てなき減税先行は無責任だ 日経 12/20

<社説> 証券口座乗っ取り逮捕 全容解明し被害防ぎたい 毎日 12/11
<社説> 香港の立法会選挙 権威主義化が更に進んだ 毎日 12/12

〈社説〉旧姓使用の法制化 改姓の不利益なくならぬ 毎日 12/13
〈社説〉マンションの防災 住民主体の備えが肝要だ 毎日 12/14
〈社説〉闇バイト「指示役」逮捕 トクリュウの全容解明を 毎日 12/16
〈社説〉定数削減法案の見送り 改革に値しない茶番劇だ 毎日 12/17
〈社説〉民法の改正で法定養育費 2 万円 子の利益守る方策さらに 毎日 12/18
〈社説〉スマホ新法が全面施行 利用者本位の運用が必要 毎日 12/19
〈社説〉官邸内から核保有発言 問われる首相の任命責任 毎日 12/20

〈社説〉生活保護の補償 減額された世帯の救済着実に 読売 12/11
〈社説〉おこめ券 物価高対策としても的外れだ 読売 12/13
〈社説〉日本と中東 惨状を放置せずに支援急げ 読売 12/14
〈社説〉香港民主派有罪 中国の言論封殺が極まった 読売 12/16
〈社説〉改正医療法成立 人材の偏在是正につながるか 読売 12/17
〈社説〉山火事相次ぐ 人為的な要因をどう減らすか 読売 12/18
〈社説〉車の危険運転 曖昧さを排して厳正な処罰に 読売 12/19
〈社説〉日銀利上げ 「金利ある世界」新たな段階へ 読売 12/20

<主張> 危険運転見直し これで遺族は納得するか 産経 12/11
<主張> NHK 新会長決定 身内の論理排して改革を 産経 12/12
<主張> 市販品類似薬 保険の適用は必要なのか 産経 12/13
<主張> レーダー照射 中国の反論は嘘まみれだ 産経 12/14
<主張> 再審法改正 消極的な国会でいいのか 産経 12/16
<主張> 黎智英氏に有罪 政治的な判決を認めない 産経 12/17
<主張> 臨時国会が閉幕 対中抑止へもっと議論を 産経 12/18
<主張> サウナ死亡事故 ブーム支える安全対策を 産経 12/19
<主張> 与党税制改正大綱 強い経済は実現するのか
「年収の壁」対応は論拠を明確に 産経 12/20

〈社説〉香港の言論弾圧 自治と自由、見る影もなく 信毎 12/21
〈社説〉給食費無償化 食環境充実につなげたい 信毎 12/22
〈社説〉核保有発言 三原則ゆるがせにするな 信毎 12/23
〈社説〉生活保護行政 最低限の保障、砦として 信毎 12/24
〈社説〉コメ高騰対策 誤算の検証が欠かせない 信毎 12/25
〈社説〉子どもの性被害防止 実効性ある防止の態勢を 信毎 12/26
〈社説〉26 年度予算案 無責任な楽観のつけ重い 信毎 12/27
〈社説〉原発再稼働 「地元同意」を問い直せ 信毎 12/28
〈社説〉膨れ上がる防衛費 「安全保障」再定義の時 信毎 12/29
〈社説〉有料老人ホーム 不正を生む隙間ふさいで 信毎 12/30
〈社説〉軍事への動員と統制 流されぬ意志、一人一人が 信毎 12/31

(社説) 税制改正大綱 財源置き去り 妥協優先 朝日 12/21
(社説) 首都直下地震 犠牲減らす対策さらに 朝日 12/22
(社説) 核兵器保有論 首相自ら明確に否定を 朝日 12/23
(社説) 税収格差是正 一体的見直しに知恵を 朝日 12/24
(社説) 教員の危機 学校への求め どこまで 朝日 12/25
(社説) 武器輸出自制 原則骨抜き瀬戸際 朝日 12/26
(社説) 122兆円予算案 財政運営に危機感持て 朝日 12/27
(社説) 再審法制の整備 救済の原点 忘れずに 朝日 12/28
(社説) スマホ新法施行 メリットを利用者に 朝日 12/29
(社説) 能登の復興 住民主体とともに歩む 朝日 12/30
(社説) 土から振り返る'25 自然と人間 思いめぐらせて 朝日 12/31

[社説] 首都直下地震の減災さらに進める対策を 日経 12/21
[社説] 年始休業で職場の魅力向上を 日経 12/22
[社説] 鉄道料金の規制緩和を早く 日経 12/23
[社説] 野村は世界市場に挑む野心を 日経 12/24
[社説] 何のための再審制度改正か 日経 12/25＊
[社説] 責任の視点欠く過去最大の予算案 日経 12/26
[社説] 防衛装備の輸出拡大へ歯止め議論尽くせ 日経 12/27
[社説] 地方税の偏在是正は妥当だ 日経 12/28
[社説] 能登の復興を息長く支えよう 日経 12/29
[社説] 株価 5 万円の期待に背かぬ変革続け 日経 12/30

〈社説〉 高市政権と税制改正 ビジョンなき減税先行だ 毎日 12/21
〈社説〉 障害生徒の統計除外 差別的対応の検証が必要 毎日 12/22
〈社説〉 水俣病の住民健康調査 救済が目的ではないのか 毎日 12/23
〈社説〉 H3 ロケットが失敗 原因究明し次への教訓に 毎日 12/24
〈社説〉 政府の医療費抑制策 狙い撃ちが混乱を招いた 毎日 12/25
〈社説〉 政府の AI 基本計画 日本の強みを生かさねば 毎日 12/26
〈社説〉 過去最大、122 兆円予算案 「責任ある」はどこに行った 毎日 12/27
〈社説〉 首都直下地震の想定 減災への取り組みさらに 毎日 12/28
〈社説〉 出産費用の無償化 医療の質守る制度設計を 毎日 12/29
〈社説〉 能登半島地震から 2 年 防災の課題共有し支援を 毎日 12/30
〈社説〉 日本政治この 1 年 目先の損得にとらわれた 毎日 12/31

〈社説〉 税制改正大綱 投資促進で新たな成長軌道に 読売 12/21
〈社説〉 首都直下地震 被害想定を防災対策に生かせ 読売 12/22
〈社説〉 出産に保険適用 妊婦の経済的負担減らしたい 読売 12/23
〈社説〉 H3 打ち上げ 失敗原因究明し信頼取り戻せ 読売 12/24

〈社説〉 外交文書公開 有事への危機感が乏しかった 読売 12/25
〈社説〉 診療報酬改定 医療従事者の待遇改善着実に 読売 12/26
〈社説〉 来年度予算案 市場の信認を得る努力尽くせ 読売 12/27
〈社説〉 消費税の滞納 事業者の勝手な流用許されぬ 読売 12/28
〈社説〉 社会保障改革 医療費削減への理解を求めよ 読売 12/29
〈社説〉 単身の高齢者 最期まで安心して暮らすには 読売 12/30
〈社説〉 能登地震2年 復興は人口減を踏まえた形で 読売 12/31

<主張> 首都直下地震 リスクを直視し備え急げ 産経 12/21
<主張> 経済同友会 新体制で信頼回復を急げ 産経 12/22
<主張> H3 ロケット失敗 信頼回復へ立て直し急げ 産経 12/23
<主張> 官邸筋の保有発言 核論議の封殺は許されぬ 産経 12/24
<主張> 診療報酬改定 効率的な医療の構築急げ 産経 12/25
<主張> 留学生の学費 支援拡充へ値上げ妥当だ 産経 12/26
<主張> 8 年度予算案 歳出改革を尽くしたのか 産経 12/27
<主張> 平成 6 年外交文書 中国への過剰配慮鮮明に 産経 12/28
<主張> 平成 6 年外交文書 中国への過剰配慮鮮明に 産経 12/28
<主張> 「国賠」個人へ請求 悪質捜査への劇薬になる 産経 12/29
<主張> 回顧 2025 新しい政治の段階始まる
平和を守る道へ踏み出した 産経 12/30
<主張> 未解決事件 局面変化に備えて捜査を 産経 12/31

※略号解 信毎:信濃毎日新聞 朝日:朝日新聞 日経:日本経済新聞
毎日:毎日新聞 読売:読売新聞 産経:産経新聞
N 長野:NHK 長野

■□■□■□■□ 発行日 令和 7 年(2025 年)12 月 11 日
令和7年 12 月 11 日初版
令和7年 12 月 22 日追記
令和7年 12 月 29 日追記
令和8年 01月 07 日追記

編集:発行人 特定行政書士 佐 藤 壽三郎

zyusaburo.com/

[佐藤壽三郎ホームページ](http://zyusaburo.com/)

zyusaburo.blog.fc2.com/ 【終生書生気質】ブログ・千曲のかなたあれも